

SHIRAKOBATO

しらこぼと



1995. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 131

日本野鳥の会 埼玉県支部

三郷市の鳥情報

近年の人口増加、高速道路の開通、農地の開発など、全てが急激な三郷市。今月号は、そんな三郷市の鳥たちの様子をレポート。

まずはJR武蔵野線「新三郷駅」である。

ねらいはシラコバトとチョウゲンボウだ。

シラコバトは、プラットホームのそこ、ここで見る事ができる。もしかしたら、最も手軽に、そして確実にシラコバトを見ることができる場所かもしれない。双眼鏡なしでも目の色まで確認できる。プラットホームの天井で繁殖もしているが、駅員さんの話によると、巣立つ前によくカラスに襲われるそうだ。

チョウゲンボウは上りと下りのホームを結ぶ跨線橋の腹側の穴を利用して繁殖している。巣穴の上を引っ切り無しに車が通っているわけだ。しかし、跨線橋の架かる旧国鉄操車場跡地に人は入れなくなっており、また跡地は餌となる小動物がどっさり、チョウゲンボウにとっては、安全と食が保障され、住みごころはよさそうである。

ポイントは、ホーム或いは跨線橋から右左に見える電柱や鉄塔の上だ(写真①)。1月末あたりは、よくキーキーキーと鳴きながら、♂と♀が飛び交っている。運が良ければ交尾を目撃できるかもしれない。副支部長のEさんは、上りのホームからこの交尾を目撃、しかもビデオに収めることができた。5月の連休前後には親子連れを見る事ができるだろう。

この「新三郷駅」のシラコバトとチョウゲンボウについては、去年の5月18日にNHK



(写真① 下りのホームから)

テレビ『おはよう日本』でも紹介された。

次に「カイツブリ」である。

三郷市と関係が深い鳥である。というのは、この地で詠まれたという万葉集東歌に

『にほどりの葛飾早稲をにへすとも

そのかなしきを外にたてめやも』

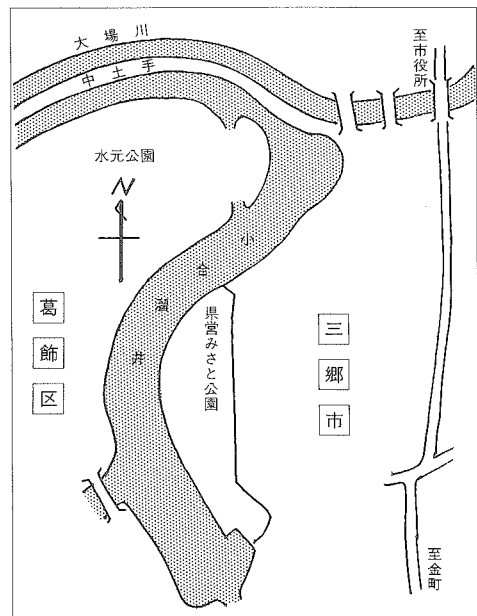
がある。言うまでもなく「にほどり」は「カイツブリ」の古名であるが、ほとんどの市民はこのことを知らず、市を語る本にも「～もう見られない～」と記載されている場合がある。そこで、あえて声を大にして言いたいのである。

「今もたくさんいますよー。場所は小合溜井、江戸川、中川で一す。繁殖もしていません。特に小合溜井は数も多く、近くで見ることができまーす」

「それからー、市の鳥を指定するなら、絶対『カイツブリ』ですよー」

そして「県営みさと公園」だ

「県営みさと公園」は、対岸の葛飾区水元公





(写真②)

園と一体的に広がる公園で、二つの公園の間を都県境の小合溜井が逆S字型に流れている。

さて鳥は、何と言っても小合溜井の水鳥たち、それも、ユリカモメとカモの仲間が、まず目に飛び込んでくる(写真②)。両方の公園側から給餌する人が多いからだろう。鳥との距離も近い。釣りが禁止されているし、いたずらも少ないからなのだろう。この事だけでも、すばらしい探鳥地と言ってもよい。ベストシーズンは11月から3月までだ。ベストポイントは、公園の北側から始まる。この付近で一日3回、給餌している。給餌に集まるカモは300を越え、9割がヒドリガモ、残りがオナガガモ、カルガモ、ホシハジロでハシビロガモも混じっている。集まってこないカモに混じって、カイツブリもいるので三郷に住む人は特にしっかり見ていただきたい。

その給餌する方は、「春になるとカルガモが、お礼に親子づれで現れてくれるよ」と楽しそうに話してくれた。

目を対岸の水元公園に移してみよう。枝が水面を覗きこむように伸びた木がある。野鳥観察舎がある。どちらかに、よくカワセミが出ており、おしげもなくダイビングを見せてくれるところだ。

もう少し、北に進んでみよう。すぐに溜井が広くなり、クチボソやタナゴ釣りの人達が



(写真③)

見えてくる(写真③)。この辺りが次のポイントである。

おもしろいのはコサギである。釣りに夢中になっている人の後ろからそっと近寄り、釣ったクチボソやタナゴをその入れ物から失敬するのである。なかなか成功しないが、うまくいった時は思わず拍手をしてしまった。

バンも3mぐらいまで近寄ってくる。カワウも行儀よく杭の上に並んでいる。アオサギ、キンクロハジロも常連だ。

対岸は、水元公園のサンクチュアリーで最も自然度の高い所だ。この辺で、F君の言う猛禽センサーのカラスたちが騒ぎ出したら要注意。オオタカがモビングされているのかもしれない。フクロウを見た人もいる。

下のリストは、昨年1年間で月1度程度の観察で作成したものである。観察を重ねれば、さらに種数は増えるはずだ。

最寄りの駅はJR常磐線「金町駅」、そこから「金52」系統のバスを利用することになるが、埼玉県に住むものにとっては、非常に不便である。車の利用を勧める。公園の駐車場には余裕がある。

あと小合溜井の中土手、江戸川河川敷、常磐自動車道下のイワツバメの集団営巣もレポートしたかった場所である。

(山部 直喜)

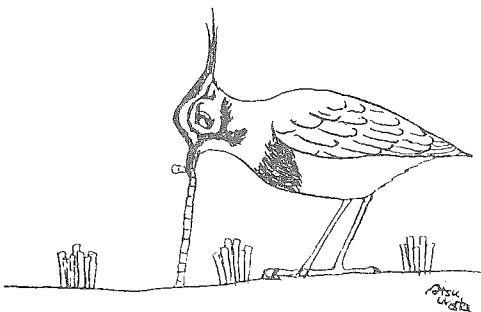
「県営みさと公園」鳥類リスト 春…3, 4, 5月 夏…6, 7, 8月 秋…9, 10, 11月 冬…12, 1, 2月

種名	春夏秋冬	種名	春夏秋冬	種名	春夏秋冬	種名	春夏秋冬
カイツブリ	○○○○	ホシハジロ	○○○○	コゲラ	○○○○	メジロ	○○○○
カワウ	○○○○	キンクロハジロ	○○○○	ツバメ	○○○○	ホオジロ	○○○○
ゴイサギ	○○○○	オオタカ	○○○○	ハクセキレイ	○○○○	カシラダカ	○○○○
ダイサギ	○○○○	コジュケイ	○○○○	セグロセキレイ	○○○○	アオジ	○○○○
コサギ	○○○○	バン	○○○○	ヒヨドリ	○○○○	オオジュリン	○○○○
アオサギ	○○○○	オオバン	○○○○	モズ	○○○○	カワラヒワ	○○○○
マガモ	○○○○	イソシギ	○○○○	ジョウビタキ	○○○○	シメ	○○○○
カルガモ	○○○○	タシギ	○○○○	ツグミ	○○○○	スズメ	○○○○
コガモ	○○○○	ユリカモメ	○○○○	ウグイス	○○○○	ムクドリ	○○○○
ヒドリガモ	○○○○	セグロカモメ	○○○○	オオヨシキリ	○○○○	オナガ	○○○○
オナガガモ	○○○○	キツバト	○○○○	セッカ	○○○○	ハシボソガラス	○○○○
ハシビロガモ	○○○○	カワセミ	○○○○	シジュウカラ	○○○○	ハシブトガラス	○○○○

ツミの罪？

三田長久 (狭山市)

野鳥情報でもお知らせしましたが2月4日の土曜日のことでした。午前9時40分頃狭山市駅近くの八幡神社と入間川小学校にはさまれた道路を自転車で通りかかりました。すると、道路の真ん中で鳥がもがいているよに見えました。ドバトが車にひかれたのかなと思って近寄ってみると、なんとツミ雌がヒヨドリを仰向けにして胸を両足でむんずとつかみ、羽を半開きにして押さえ込んでいたんです。ヒヨドリは哀れな声を出してもがいており、ツミは私がすぐ近くに寄ってもヒヨドリがもがいているせいか10cm程度しか飛び上がれず、道路の端に寄っただけです。私はその場を知らん顔して通り過ぎて神社の境内から眺めていたところ、ヒヨドリはツミに胸の羽毛を何回かむしられると精神的ショックから数分でぐったりとなりました。そのとたんツミは思いっきり羽ばたいて自分よりやや小さい程度の大きさのヒヨドリをつかんだまま飛び上がって茂みに入っていました。身近なところでツミは生活しているとは聞いてはいたんですが、いやはやこんな町中で凄いのを見てしまいました。



ごめんなさい

先月の2月号、3ページの右下、1行とんでしまいました。下記の文を追加し、おわびいたします。校正の時はあったのに…。

「ら、あえてこんなことを書いてみました。」

こうすれば楽しい、鳥見の秘伝
こんな商品あったらなあ

杉本秀樹 (杉並区)

- ① 探鳥会に出かける前に場所と季節によって出そうな鳥を予習します。フィールドガイドや野鳥識別ハンドブックで調べておいて、当日、他の参加者に説明するとその分だけ自分が覚えられるという具合です。もし、まちがえたら素直に訂正しましょう。
- ② 大穴を予測します。自分がまだ見えない種類で、可能性のありそうな鳥について調べたりすると、季節や自然環境について敏感になります。
ヒメコウテンシの予習をして初春の川角に行ったらアリスイが出ました。
- ③ 新宿、池袋の駅を闊歩できる長靴が欲しい。行きはまだいいとして、帰りにはンゴロンゴロとやけに響くのです。

『気ままにバードウォッチング』愛読者
カートの感想から

- この種の本は最近多く(多すぎる)、この中での出版編集なので、あとからのものはそれだけの特徴がないと売れないと思います。しかし、この本はやはり埼玉の特殊性を理解したうえで書かれた良い本と思います。そして会員であればかなりの人数が購入します。(68歳 男性)
- 数冊買って、結局『フィールドガイド日本の野鳥』を買った。此の本は薄いのに、フィールドガイドプラス探鳥地という感じで、本屋さんで見つけてすぐ買いました。中の説明も簡潔で、カラーも本物に近くて気に入りました。(41歳 主婦)
- 庭に小鳥の餌台を置き、小鳥類の鑑賞をより楽しむために購入した。きれいな写真で、本自体も楽しめるが難を言うが高価すぎる。良い本だが、値段を事前に知っていたら買わなかった。(60歳 男性)

白馬からの便り

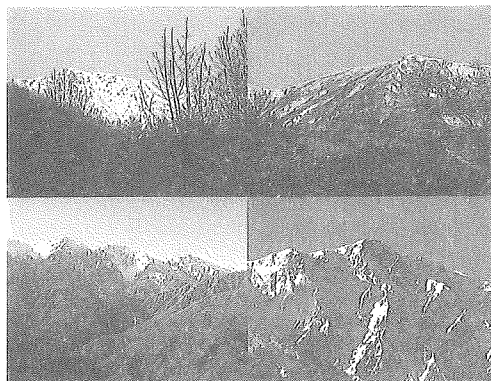
渡辺浩平 (長野県白馬村)

当地で営むペンションの客の一人が、付近の風景をビデオプリントでポストカードに作ってくれたので、あれこれ近況を書いて送ります。

[アレ] ミソッチョにスズメバチの巣を壊された。ある日気がついたらスズメバチの巣が3分の2くらいになっていた。雪などのせいかなと思っていたら、夕方、突然中からミソッチョが出て来たんですねえ。びっくりじゃ。

どうやらねぐらにしているらしい。

[コレ] 記念すべき1月10日、ついにしっかりしたお手製の餌台が完成。1週間続いた大雪を境にコガラ、シジュウカラ、アカゲラなどが集まるようになったけど、連中としては、1:4くらいで牛脂ネットの方が好きらしい。コレステロール過多で早死にしないかと、窓に頬杖ついて眺めながら心配している今日このごろです。



最後の最後にナンヨウショウビン

川崎洋子 (春日部市)

1月号「海外の探鳥」の記事は、サイパン旅行を控えていた私にとって、まことに時宜にかなったものでした。

国内の探鳥会にも参加したことのない私は全くの初心者ですので、記事に紹介された鳥を野鳥図鑑で調べ、『しらこぼと』をカバンに入れて旅立ちました。

ところが、パッケージツアーに参加したものですから、ここに10分、あそこに10分とい

う具合で、バスから降りて記念写真を撮るのが関の山なのです。

バードアイランドでは、シロアジサシとクロアジサシらしい鳥が飛び回り、町中でも「空をヒラヒラ飛ぶ白い鳥」は割合よく見かけましたが、ネットイチョウ類はさっぱり。あとはスズメばかりで、ちょっとがっかりでした。

ところが帰国直前、ホテルの庭で、スズメではない澄んだ声を初めて耳にして、見上げた枝に、ナンヨウショウビンがいたのです！

本当にきれいな青い翼でした。最後の最後に見られたのは、天からの贈り物でしょうか。松井さん、参考になる記事、ありがとうございました。公私ともに海外に行く機会が多いのでまた珍しい鳥に出会えるのが楽しみです。

ウィークデイ探鳥会の提案

K生

いつもすばらしい探鳥会を催していただき、ありがとうございます。ウィークデイ探鳥会は、

- ①休日がずれている方
- ②土曜休日が忙しい自営業の方
- ③土曜日は家族サービスのため外出できない専業主婦
- ④第三の人生をエンジョイしている平日OKの方
- ⑤授業がない、あるいはサボっている学生

などが参加可能で、少人数かも知れませんが、少人数だとお互いに顔も名前も覚えやすく、親しみやすいでしょう。

一方、探鳥地についてみると、当然人も少なくて静かそのもの、鳥たちものびのびして、観察条件はおおいにグーです。

いかがでしょうか。

<普及部から>問題は、担当リーダーです。

かつては平日探鳥会を開催していた時期もありました。ところがそのリーダーが転勤してしまい、今はしばらく中断しています。

近いうちにできるリーダーが現れるかも知れません。そのときはぜひご参加ください。

野鳥情報

カンムリカイツブリ ◇12月31日、戸田市道満荒川第一調節池で2羽(陶山和良・順子)。
 アオサギ ◇11月23日、春日部市の古利根川東武野田線鉄橋上流で4羽(門谷直樹)。
 ヨシガモ ◇1月15日、川越市下新河岸の新河岸川旭橋付近で♂1羽(藤掛保司)。
 アメリカヒドリ ◇1月15日、川越市下新河岸の新河岸川旭橋付近で♂1羽(藤掛保司)。
 ミコアイサ ◇12月31日、戸田市道満荒川第一調節池で1羽(陶山和良・順子)。
 オジロワシ ◇1月1日午前10時15分頃、浦和市秋ヶ瀬のB区で1羽。翼は幅広くて大きく、尾は短く丸みのある白色であった。秋ヶ瀬で見るオジロワシは最高であった(細井要)。
 ツミ ◇2月4日午前9時40分、西武狭山市駅近くの八幡神社と入間川小学校にはさまれた道路の真ん中でツミ♀がヒヨドリを仰向けにして胸を両足でむんずとつかんで押さえ込み自分とほとんど同じ大きさのヒヨドリをつかんだまま飛び上がって茂みに入った(三田長久)。



サバクヒタキ 足立区小菅駅近くの荒川河川敷で越冬中
 1月15日撮影(海老原美夫)

ノスリ ◇12月29日、入間市の加治丘陵、武蔵野音大上空で1羽(山本真貴子)。
 ◇1月26日午前9時30分頃、大宮市のJR指扇駅プラットホーム上空で1羽。ハシトガラスにからまれて巡回しながら、しだいに上尾方面に遠ざかり、視界から消える(松井昭吾)。
 ハイロチュウヒ ◇12月20日、本庄市の利根川阪東大橋下流で♂1羽。頭上を下流に向かって飛んでいった。白い胸、腹と風切羽の黒のコントラストが印象的でした(小池一男)。
 コチョウゲンボウ ◇12月29日、戸田市の道満公園で1羽。ハシボンガラス2羽に追いかける(陶山和良)。
 チョウゲンボウ ◇12月16日、大宮市日進1丁目目で1羽。当地では初めて(森本國夫)。
 ◇1月10日、秩父市桜木の秩父市立病院上空で♂1羽(山口輝雄)。
 ヤマドリ ◇12月24日午後4時頃、深谷市の仙元山公園の草むらで♀4羽(倉崎哲郎・淑子)。
 イカルチドリ ◇12月10日、飯能市下畑の成木川で1羽(藤森三治・恵美子)。
 セグロカモメ ◇12月29日、戸田市道満荒川第一調節池で2羽(陶山和良)。
 ウミネコ ◇1月14日、狭山市の入間川広瀬橋付近で1羽(三田長久)。
 カワセミ ◇11月22日、飯能市下畑の成木川で4羽(藤森三治・恵美子)。
 ◇12月23日、志木市の柳瀬川高橋の真下で1羽(中村治)。
 アオゲラ ◇12月28日、入間市扇台の自宅前の原っぱの桐の木で♂1羽。「キョ、キョ」といって幹をつつきまわっていました(吉田郁子、恵、望)。
 ◇1月12日、大宮市西新井の森で♂1羽(浅見徹)。
 コゲラ ◇1月12日、浦和市高砂の埼玉県庁構内のマロニエの木で1羽(吉越肇)。
 ヒヨドリ(部分白化) ◇12月12日、浦和市のJR南浦和駅前の文化通りで胸から頭が白い個体が1羽(門谷直樹)。
 カヤクグリ ◇12月12日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(小池一男)。
 ルリビタキ ◇11月30日、飯能市下畑の成木

川付近の雑木林で♂1羽(藤森三治・恵美子)。◇12月9日、寄居町の鉢形城趾本丸跡の東屋付近で♂1羽(小池一男)。◇1月8日、吉田町の城峯山で♂1羽(山口輝雄)。◇1月13日、大宮市西新井の森で♀1羽(浅見徹)。◇1月29日、坂戸市西坂戸の雑木林で♀1羽(増尾隆・節子)。

トラツグミ ◇12月6日、江南町の会社社員通用口わきで死体を見つける。おそらく入り口の窓ガラスに衝突して首の骨を折ってしまったものと思われる(伊藤茂)。◇1月13日、大宮市日進1丁目で1羽(森本國夫)。◇1月29日、飯能市の宮沢湖付近の雑木林で1羽(山本真貴子)。

アカハラ ◇1月11日、大宮市西新井の森で1羽(浅見徹)。

シロハラ ◇1月11日、大宮市西新井の森で1羽(浅見徹)。

キクイタダキ ◇12月13日、大宮市日進1丁目で2羽(森本國夫)。◇1月13日、大宮市西新井の森で1羽(浅見徹)。

エナガ ◇1月9日、飯能市下畑、成木川付近の雑木林で17羽(藤森三治・恵美子)。

コガラ ◇1月29日、日高市の台滝不動付近の雑木林で2羽(山本真貴子)。

ヒガラ ◇1月6日、大宮市日進1丁目で2羽(森本國夫)。◇1月20日、大宮市堀崎町の上の台公園で1羽(藤原真理)。◇1月21日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥園で9羽(有山智樹)。

ヤマガラ ◇12月16日、大宮市日進1丁目で2羽(森本國夫)。

ホオアカ ◇11月3日、富士見市水子の柳瀬川左岸で1羽(黒田佳子他)。

ミヤマホオジロ ◇1月29日、日高市の奥武蔵自然道、高麗峠付近の埋立地で♀1羽(山



榎本 菜摘野(小5)

本真貴子)。

クロジ ◇11月3日、富士見市水子の柳瀬川左岸で♂1羽(柳瀬川探鳥会二次会組)。◇11月19日、同所で♀1羽(中村治他)。

マヒワ ◇12月25日入間市の加治丘陵、武蔵野音大付近で約30羽(山本真貴子)。◇1月6日、大宮市日進1丁目で25羽(森本國夫)。

ベニマシコ ◇12月12日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽(小池一男)。◇1月9日、浦和市秋ヶ瀬の野鳥園で♀4羽。21日にも同所で♀1羽(有山智樹)。

ウソ ◇12月30日、寄居町の鐘撞堂山で♂1羽(増尾隆・節子)。◇1月7日、狭山市の稲荷山公園裏口で♂♀各1羽。リョウブの種子を食べていた(三田長久)。◇1月28日、坂戸市城山で♂2羽(増尾隆・節子)。◇1月29日、飯能市の宮沢湖畔の桜の木で♂3羽(山本真貴子)。

表紙の写真

『気ままにバードウォッチング』掲載作品

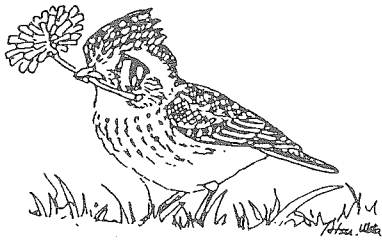
ヒバリ(ヒバリ科)

杭から20メートルほど離れた草の中に巣があるらしく、ひんぱんに餌運びをしていた。餌を運んだ後、次の餌探しの前に、必ずこの杭にとまって休息するので、そこに焦点を合わせた。

伸び始めた手前のヨシと、遠くの雑木林の緑で、ほど良いグラデーションになった。

1週間後に行ってみたら、ヨシが杭より高く伸びてしまい、ヒバリもとまらなくなっていた。
佐久間孝夫(浦和市)

行事あんない



(渡辺 敦)

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会 埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月11日（土）
集合：午前9時30分 東武日光駅前
交通：東武日光線春日部7:42発（快速）に乗車。日光9:15着
解散：午後2時頃、現地にて
担当：中島（康）、松井、桜庭、福井
見どころ：春の探鳥地第1弾!!何がでるかは当日のお楽しみとしても、ミソサザイは充分に楽しめます。アフターは市内観光、東照宮見物も結構ですね。小さな旅気分が味わえますよ。
注意：日光フリーパスではなく、通常の乗車券を利用して下さい。

大宮市・染谷見沼自然公園探鳥会

期日：3月12日（日）
集合：午前8時15分 JR大宮駅東口、こりすのトトちゃん像前、集合後、バスで現地へ、または午前9時15分、さぎ山記念公園駐車場
担当：工藤、新堂、高松、兼元
見どころ：春の探鳥地第2弾!!レンギョウやモモの花が咲き、ヒバリのさえずる中、旅立ち間近な冬鳥たちを探してのんびり歩いて見ませんか。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月12日（日）
集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03

発に乗車

担当：菱沼（一）、森本、小池、田口、菱沼（洋）、斉藤、中島（章）、根岸、石井（博）、和田

見どころ：月日の経つのは早いもので、今年もコハクチョウたちが故郷に帰る季節になりました。あのアカゲラやベニマシコはどうしたでしょうか。ちょっとり気掛かりな明戸です。

川越市・西川越探鳥会

期日：3月12日（日）
集合：午前9時 JR川越線西川越駅前
交通：JR川越線大宮8:36発、川越乗継8:55発に乗車
担当：佐久間、長谷部、石井（幸）、三田、小野、山本、中村（祐）、池永、藤掛
見どころ：春寒も次第にゆるみ、アオジ・カシラダカなども帰り支度を始める時季になりました。カワセミ君と一緒に見送りを惜しんでみませんか。

大宮市・花の丘公園探鳥会

期日：3月18日（土）
集合：午前8時30分 JR大宮駅西口8番バス停上の通路。集合後バスで現地へ。または午前9時00分 花の丘公園事務所前駐車場
担当：桜庭、中島（康）、松井、新堂、高松、佐藤（進）、浅見、飯塚
見どころ：春の新探鳥地第3弾!!草花の咲く

公園と林の中を歩きます。シジュウカラやキツツキの仲間の他にどんな鳥がでるでしょうか。楽しみにしていらして下さい。

浦和市 三室地区定例探鳥会

期日：3月19日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）。または午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺（周）、手塚、笠原、伊藤、若林、岡部、倉林、嶋田、兼元

見どころ：レンギョウ、モモ、ユキヤナギ、ウメ、三室はサクラ咲く4月を前に花盛り。鳥たちも例年多く出現する。春がやって来て、春霞に鳥たちの思いが浮かんでくる。去年は、ハマシギが乱舞し、カワセミが飛翔した。今年はどうかな！

寄居町 玉淀河原探鳥会

期日：3月19日（日）

集合：午前9時10分 秩父鉄道寄居駅南口
交通：秩父鉄道熊谷8:23発、お花畑8:19発、東武東上線川越8:00発、小川町乗継

担当：小池、田口、菱沼（一）、小淵、中島（章）、斉藤、井上

見どころ：水ぬるむ春、久しぶりの開催です。冬鳥たちも春の到来に気づいて、何やらソワソワ。河原の自然を味わいながら歩けばカワセミが、そして鉢形城趾では、ルリビタキが待っています。

秩父市 羊山公園探鳥会

期日：3月21日（火・祝）

集合：午前9時40分 西武鉄道西武秩父駅前
交通：秩父鉄道熊谷8:23に乘車、お花畑駅下車、徒歩5分で西武秩父駅前に。または西武鉄道所沢8:05発快速急行に乘車して9:25着。現地集合は、公園の入り口近くの大駐車場。

担当：海老原、福井、佐久間、菱沼（一）、小池、岡野、井上、青山、関根

見どころ：今年はマヒワなど、色つきの小鳥類が全国的に多いらしい。我が秩父では果たしてどうか。会えるか会えないか楽しみな探鳥会。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月25日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

野鳥写真クラブ定例会

とき：3月25日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

狭山市 入間川定例探鳥会

期日：3月26日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:45発に乘車

解散：正午頃、稲荷山公園

担当：長谷部、三田、石井（幸）、小野、中村（祐）、山本

見どころ：わずか十数グラムのツバメやイワツバメが、千キロ以上の距離を渡ってきます。見なれた鳥たちも、もう一度よく見て下さい。彼等のすばらしさを再認識することでしょう。

浦和市 見沼ヘルシーロード探鳥会

期日：4月1日（土）

集合：午前9時 大崎事業所の裏の芝生グラウンド

交通：JR浦和駅西口1番バス乗り場より、さぎ山記念公園行き8:32発または大崎園芸植物園行き8:24発に乘車、大崎園芸植物園下車。

担当：伊藤、楠見、笠原、桜庭、高松、新堂、渡辺（光）

見どころ：そうです！見沼は満開の春なのです。たくさんの花々が咲く道をノンビリ、ウキウキ歩いて行くと、頭の上をツバメが、耳には心地よいヒバリの囀りが…。春ってやっぱりいいですよ。ね。

行事報告

12月4日(日) 本庄市 阪東大橋
参加: 32人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ カワアイサ トビ ノスリ チョウゲンボウ キジ ケリ タゲリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 名物のからっ風の中を「気ままにバードウォッチング」の通りに歩いた。幹書房のTさんも「本」片手に参加してご満足の様子。カモ10種は冬の王者「阪東大橋探鳥会」の自慢の一つ。カワアイサ27羽ご滞在はニューレコード!! (町田好一郎)

12月10日(土) 浦和市 見沼ヘルシーロード
参加: 29人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ キジ タゲリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) スタートして小鳥たちを見ながら空を見上げるとノスリ。ツグミを探して歩いて行くと、木々の上を飛ぶチョウゲンボウ。なかなか出なかったタゲリを、芝川周辺で皆でじっくり見て、満足して帰る道にオオタカ。期待した以上の筋書に、参加者の皆さんの足取りも、強い風の中を長い距離歩いた割りに軽かった、カナ? (伊藤芳晴)

12月11日(日) 熊谷市 大麻生
参加: 65人 天気: 曇

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ コガモ

チョウゲンボウ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 曇りであったが、風は比較的弱く、まずまずの探鳥会日和。参加者も65名と100回記念以来の大人数となった。今回は野鳥の森へと向かう。堤防の上からおなじみのホオジロ、モズを観察する。小さな林を抜けるとアカゲラを発見した。このアカゲラはこの後も姿を見せてくれて我々を楽しませてくれた。畑でキジやシメを見てから野鳥の森へ入る。森の中は意外と鳥の数が少なく、皆で耳を澄ますとメジロ、シジュウカラ、アオジなどの声が聞こえた。河原では、ジョウビタキ、カシラダカ、カワセミを見て、最後はチョウゲンボウで締めくくった。最後まで気温は上がらず、せっかくのお弁当は持ち帰った。(菱沼一充)

12月11日(日) 所沢市 狭山湖
参加: 36人 天気: 曇時々雨

ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ ホオジロガモ キジバト アオゲラ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (31種) 山口観音手前の林でカケスが美しい姿を見せてくれた。「気ままにバードウォッチング」のコースを行こうとしたが、雨のため玉湖神社をカットした。狭山湖では、カンムリカイツブリが100羽以上群れており、とても美しい。ホオジロガモは盛んに潜るため、はっきり姿を見ることができない。きっと水の中の方があたたかいに違いないと思うてしまう程、冷たい風が吹いていた。(三田長久)

12月18日(日) 浦和市 三室地区

参加: 41人 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ
ホシハジロ キンクロハジロ チョウゲンボウ
コジュケイ バン タゲリ ハマシギ イソシギ
タシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト
コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロ
ハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シ
メ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス(40種) 年忘れ探鳥会を祝って40
種の鳥たちが出現した。チョウゲンボウが空に舞
い、ハマシギが芝川を低く飛ぶ。ユリカモメ、セ
グロカモメが海の匂いを運んでくる。藪の中から
は、ウグイス、アオジの地鳴きが聞こえてくる。
バンが芝川の中州の緑の中に、赤い額を見せた。
今年から来年につながる鳥仲間たちのすばらしい
集いでした。(楠見邦博)

12月24日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 17人

荒木恒夫、岩上照代、岩波勇一、江波 功、海老
原教子、海老原美夫、尾崎甲四郎、佐久間博文、
佐藤信治、篠原東彦、中村 治、橋口弘視、藤掛
美紀、藤野富代、松井昭吾、安原久子、渡辺喜八
郎 ㊦ いつもご苦労様です。

1月3日(火、休) 浦和市 さぎ山記念公園

参加: 52人 天気: 曇後雨

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ
オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオ
タカ タゲリ クサシギ タシギ キジバト カ
ワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキ
レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モ
ズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウ
カラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ
オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムク
ドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(38種) タゲリ、オオタカ、カワセミの豪華三点
セットを堪能。メジロ、アオジ、ホオジロなど国
内で繁殖する鳥が割りと多く見られるのは、昨夏
の猛暑のせい。ツグミ、カシラダカなど、シベ
リアで繁殖する鳥が少ないのは、その地方が冷夏
だったせい。ただし、シベリアが冷夏だったと
いうのは、人から聞いた話で、確かめたわけでは

ないけども。そんな話を交えた鳥合わせの後、日
だまりに座りこんでの野外懇親会。シートを敷い
てお座敷を作り、カンパニー、今年もよろしく。

(海老原美夫)

1月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 52人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ コハク
チョウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ
オナガガモ ホシハジロ トビ ノスリ チョウ
ゲンボウ イカルチドリ クサシギ イソシギ
キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ヒバリ
ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨ
ドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ
ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス(43種) 今年最初の大麻生探鳥会に多くの人
たちが集まってくれた。そろそろ鳥が見たくてウ
ズウズしてたのかも。コハクチョウを見に明戸堰
に向かう。常連のモズ、ホオジロを見ながら堤防
を歩く。途中の林で雌のジョウビタキに出会った。
とても仕草がカワイく皆で大喜び。アカゲラも現
われて盛り上げてくれた。堰の上流でフィフィ
フィとベニマシコの声。姿は見えなかったが、後の
何人かは見られたようだ。お目当てのコハクチョ
ウは100羽を越えるが、餌付けが始まってから距
離がちよっぴり遠くなって残念。(菱沼一充)

1月16日(月、振休) 吉見町 吉見百穴周辺

参加: 34人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ コガモ
ハシビロガモ キンクロハジロ バン オオバン
キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セ
グロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジ
ョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラ
ヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボ
ソガラス ハシブトガラス(32種) 朝からよく晴
れて絶好の探鳥日和。大沼のカモは、前日のカウ
ントで299羽とやや期待薄だが、気を取り直して
元気に出発となる。少し歩いたところで思いがけ
なくルリビタキ♀が出現。これを全員で観察して、
みんな内心ホクホクの探鳥会となった。カマキリ
の卵囊をついばむシジュウカラの姿も印象に残る。
(榎本秀和)

連絡帳

● 創立60周年記念感謝状の推薦

今年度日本野鳥の会が創立60周年を迎えることを記念し、わが国の自然保護の推進に著しい貢献をされた方々への感謝を表わすために、感謝状が贈呈されることになりました。

埼玉県支部としては、「支部活動に貢献の大きい方。支部の設立に尽力のあった方」という推薦基準に最適な候補者として、鈴木忠雄前支部長を役員会満場一致で推薦しました。

当支部としては、1985年2月、創立50周年記念感謝状を受けた故今井昌彦元支部長につぐ2人目の受賞です。

● 会員らの普及活動

[あさひ銀ユニオンクレジット探鳥会]

1月22日(日)午前9時30分から、同社主催の第2回バードウォッチングが浦和市三室地区の見沼たんぼで開催され、約30人の参加者に対し、当支部のリーダーたちが指導に当たりました。(担当:海老原美夫、楠見邦博、楠見文子、工藤洋三、倉林宗太郎、福井恒人、若林正徳)

[三郷市の体験講座]

同じ日、県営みさと公園では、同市生涯学習課主催の体験講座バードウォッチングが開かれて32人の親子が参加、カイツブリなどを観察しました。(担当:山部直喜、神場真文、下川礼子、村上由香)

[テレビ埼玉の番組も継続中]

テレビ埼玉で、海老原副支部長が自分の写したビデオ映像で野鳥を解説する『野鳥』という番組も続いています。

毎週水曜日と木曜日の午後1時30分ころから約5分間ですが、その週によって時間が多少前後にずれますし、水曜か木曜のどちらかだけになることもあります。

● ご寄付と支部賛助会費にお礼申します

あさひ銀ユニオンクレジット探鳥会リーダーたち60,000円、新井清子407円、浦和市立郷土博物館親子探鳥会リーダーたち(楠見邦博、草間和子、福井恒人)5,000円、大武昭雄賛助会費8,000円、岸田和男5,000円、総会懇親会参加者たち4,290円、土田吉保1,000円、年末懇親会二次会有志7,200円、三宅島探鳥会参加者たち2,337円。昨年前半の分も含まれています。掲載が遅くなり申し訳ありませんでした。(敬称略、50音順)

● 3月の土曜日当番(2時~6時)

4日 リーダー役員懇親研修会、事務局休み
11日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
18日 黒田佳子 内藤義雄(校正の日)
25日 袋づめの会(1時から)

● 会員数は

2月1日現在2,507人です。

活動報告

1月12日『気ままにバードウォッチング』の一部埼玉新聞に連載開始。

1月21日 2月号校正(海老原美夫、工藤洋三、桜庭勇)。

同日 役員会議(司会:登坂久雄、関東ブロック会議、バードウィーク行事、その他)。

1月28日 普及部便りをリーダー全員に発送(楠見文子、海老原教子、海老原美夫、篠原東彦)。

編集後記

2月10日、「野生の生き物とふれあう学校連絡会議」に支部長代理の来賓として参加した。

県自然保護課橋本氏の言葉、「アヒルより野鳥を、学校の花壇は園芸種より野原の草花を、桜より雑木林を」。

行政でも、環境に対する考えが少しずつではあるが、大きな力で変わりつつあると感じた一日だった。(山部直喜)

しらこぼと 1995年3月号(第131号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断掲載はかたくおことわりします)

再生紙使用